



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

あけまして 南無阿弥陀仏

苦難を超え 共々に白道を歩む

新型コロナウイルスの感染が拡大して、三年目の年が明けました。感染防止のため行動が制限されて、命の危機におびえ、心身を病む人が増えています。

禅僧の一休宗純さんが「門松は冥途の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし」と詠んでいます。我々、浄土真宗の門徒としては、冥土の旅でなく浄土の旅と詠みたいものですが、「めでたくもあり、めでたくもなし」の心境には共感させられますね。

デルタ株が猛威を振るった昨夏の第五波が沈静化して、ワクチン接種率が世界最高の7割を越えた日本は、一安心と思っていました。が、今度は南アフリカからオミクロン株が入ってくることは、いささかうんざりします。だから、3回目のワクチン接種を皆さん受けることになるでしょう。だが、一体いつまでこんなことが続くのか？

先進各国ではワクチン接種がかなり進んだのですが、発展途上国など貧しい国や地域ではワクチンを十分に調達することができません。そのため、強制的なロックダウンなどである程度まで



で感染拡大を抑えることができてもウイルスはやはりどこかで残り、しばらくすると再び、新たな変異株の感染が拡大する、ということが繰り返されるのでしよう。……

「こんな繰り返し返しの間に、わが命の灯がだんだん短くなる。そう思えば、我々は急ぎ、本気で「冥土の旅でなく、浄土の旅」を歩まねばなりません。」

最初に触れた一休禅師は蓮如上人と同時代の方で、結構交流があったようです。ある時、一休さんが蓮如上人に歌を書いて謎をかけました。

「極楽は十万億土というからにや 足腰立たぬ婆は行けまじ」。仏説阿弥陀経に、極楽は十万億の仏土を過ぎたところにあると書いてあるのだから、そんな遠い所へは足腰の丈夫でないお婆さんのような人はとても行けないだろう？ それでは皆を救うという阿弥陀さまの教えは駄目じゃないか、という訳です。それに対して蓮如上人は、歌で返しました。

「極楽は十万億土というなれど 近道すれば南無の一声」。確かに極楽浄土

は十万億土離れた所とお経に書いてあるが、阿弥陀さまの方からは「南無阿弥陀仏」の一声で救うて下さるのでよ、と返答されました。それにはさすがの一休さんも「なるほど」と感心され、お念仏を称えられたという話です。

「晴れ晴れと浄土の旅は楽しけれ」という法句を残して入院、手術の末、植物状態のまま往生浄土の道を歩まれたお方もあります。だが最後の八年間は無言のまま家族や知友の方々と心の対話の時間だったといえます。弥陀の呼び声に目覚めを頂く往生浄土の道は、悪(不治の病)から転じられ念仏の善と一つになる白道、家族も皆念仏の道を共に歩む輪ができたのです。



☆ 写真アラカルト ☆



☆行事ご案内☆

◇元旦会 & 御正忌お朝事

※元旦会(がたんえ) 1月1日朝9時

正信偈 新年のスタートは家族揃ってお寺参り

※お朝事 1月13・14・15・16日の朝7時

連続4日間のプチ修行、正信偈、法話他

◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。家族やお友達とご一緒にどうぞ！

◇一縁会テレホン法話 ☎059-354-1454

年末年始は善正寺が週替りで連続担当、12/27より住職

1/3より坊守、1/10より若院 ぜひお聞き下さい！

◇5時の鐘撞き 夕方5時の鐘撞きは年中無休で開放

誰でも撞けます！合掌できる子供をお寺で育てよう！

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧、毎日更新ブログ住職と坊守のつれづれ日記

大好評、開設13年5か月36万5千訪問、お悩み相談増加

◇新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方相談下さい

◇法事場所でお困りの方本堂使用可、寺にご相談下さい

※『三重組連研オンライン会場』の一つに善正寺が選ばれました。

1/27、2/27、3/27、4/27の連続4か月、毎月27日夜7時より9時までオンラインで開催します。コロナ時代の伝道教化です

坊守スケッチ スマホ脳から身を守ろう



今や世界中の人々がスマホは必需品です。電車でも歩いていても画面と睨めっこする人ばかり。スマホは最新のドラッグとさえ言われるほど、その弊害はあちこちに潜んでいます。

最近突発的イベントが続いています。京王線車内の放火事件や、愛知の中3生殺人事件等も、スマホ世代の心の闇が一因ではないかと思われまます。

スウェーデンの精神科医アンデシユ・ハンセン氏の『スマホ脳』という本が昨年ベストセラーになりました。それによると「スマホの便利さにおぼれている内に脳が蝕まれていく。睡眠障害、うつ、記憶力の低下、学力低下、依存症などを引き起こす。抑々人間の進化の過程は、飢えや死への恐怖との闘いだった。そんな人間の精神がデジタル社会に適応しないと、ストレスを貯める。身近にスマホを置かないと落ち着かず、呼び出し音が鳴ると仕事や勉強中でも画面を覗く。自らのSNSの発信で「いいね」の人数を気にし、送信したメールに既読が付かないと不愉快になりイライラ。日夜スマホに振り回されて、次第に我慢が出来ない人間になるとなる」と警告しています。

アップル創業者の故スティーブ・ジョブズ氏は、我が子にスマホの使用を禁止しました。スマホが脳に与える危険性を察知していたのでしょうか？

池上彰氏も「スマホを傍に置くだけで、学習効果、記憶力、集中力は低下。スマホ断ちの時間が必要」と言っています。現代人はスマホなしでは生きていけないほど生活に密着しています。

「スマホ脳に侵されない為には、先ず枕元にスマホを置かず、十分睡眠をとり、散歩などの軽い運動を継続することでストレスへの耐性を身に着けよう」とハンセン氏は忠告しています。デジタル化は脳には諸刃の剣です。情報を簡単に得られる代りに、情報の洪水に溺れ自分で考えることをしなくなつて、キレやすい人間を生み出しました。上手にスマホと付き合つて、自分らしく生きていきたいものです。

俳壇

訃報聞き体硬直秋寒し

釋妙水

葉裏見せ風の吹くまま逝く紅葉

コスモスや優しく強く友は逝く

ビル街の合わせ鏡に秋の街

釋楽邦

黄金の銀杏並木の人の波

大の字に寝転ぶ芝生小春の日

鐘つきの児ら合掌す冬夕焼

釋清風

焼芋の香りが誘う小屋時

寄り添ひて合掌の子ら冬の朝

もう誰もいない校庭冬木立

山茶花は白し鳥居は真つ赤つか

仏前に正座すばかり着ぶくれ隊



若坊守の子育て日記No.85

夏から秋、そして冬へと瞬間に季節が変わりました。暑いから嫌がっていた自転車練習を、長女(小一)が再開したのは十一月。乗っていない間に身長が伸び、サドルを知り合いに上げてもらい、ようやく本格的に練習再開です。

幼稚園の頃から鉄棒が得意なので、自転車もすぐに乗れるのではないかと期待しました。しかし苦勞している様子で、「できない、もう止める！」と以前はよく言っていたのですが、今回は覚悟を決めて自分から練習に私を誘います。

「あと一息だよ!」「一息つてどのくらいよ?」などと尋ねながら、少しずつバランスを取り走れるようになりました。その日は三十分ほど黙々とペダルを踏み続け、駐車場を縦断できるようになった時には、空は暗くなっていました。私と長男が驚いて拍手を送りました。長女もはにかみながら嬉しそうでした。そんな長女が、時々こんな事をしてくれます。トイレトペーパーを三角に折ってくれるのです。お客様にする事だと思っていたので、長女のサービスピ精神にほっこりします。ありがとう。



ホットニュース

※12月4日のお内仏報恩講には40名程のご参詣を頂きました。庫裏の仕切りを全て取り広げ、「コロナに負けるな!」というエールを頂戴しました。帰りにはお持ち帰り弁当とお茶を用意しました。※12月16日午後、第2回トライアングルの『歌広場』ギター・マンドリン・歌の共演で、懐メロ中心に皆さんと一緒に歌いました。カンパありがとう

石田美彌子様、伴野節子様、矢田たず様、松岡康様、栗本洋子様、柴田美津代様、豊住久美夫様、海野公子様、他匿名様より、感謝!

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」337号をお届けします。◇明けまして南無阿弥陀仏。新年おめでとございませす。コロナ禍の昨年、受診控えの末に急死された人もありました。◇「俳壇」の中の、お一人目の俳句は、いずれも急逝の友を悼み詠まれた句ばかり。追悼の情一入、衷心より合掌、お念仏申し上げます。◇コロナ禍はオンラインの研修、得度習礼など続々。一月から4回、私どもの寺が三十二環境整備充実のため三重組のオンライン連研会場の一つになった。必要は発明の母、今年も新手が続々登場するかもしれません。◇まだまだ油断は禁物、充分注意しつつ元気にこの一年努めましょう。合掌。

明けましておめでとうございます。年内に寺報が届く方には
どうかご容赦下さいませ。昨年末よりオミクロン株の第
六波感染が心配になり、落ち着かない新年を迎え
ました。コロナ感染もいつまで続くのでしょうか？
マスクなしで自由に伸び伸びとお話しができた頃を
懐かしく思い出されます。お寺の行事も常に不安
との背中合わせでしたが、伝統行事を中止するには
心苦しく、最大限の注意を払いながら短縮版でお
勤めしました。おかげさまで私達の気力も何とか持
ち堪えています。しかしお寺を取り巻く環境は益々
厳しくなるばかりです。従来と同じ活動は無理だと
いう事も痛感しています。それに対して世間では悩みを
抱えた人が増加傾向です。ホームページを見た。悩み相談を
したい」という電話や来訪者が増えました。職場の人間
関係、家庭内のもめ事、将来への不安等、相談内容は
様々です。約一時間、お話を伺って幾分心が軽くなつて
帰られます。お寺はかつて幅広い社会的役割を担っ
ていました。信仰の場、文化芸能の場、そして子供が学ぶ
場でもありました。現在お寺は「つながりの場」と
思います。家で、会社でも学校でもない「居場所」を提
供します。孤独を感じたならばどうかお寺へ足を運ん
で下さい。仏教に接することで苦への向き合い方や人生の
歩み方が違ってきます。お寺は生きる人の為のもの。今年も
善正寺だよりをよろしくお願い申し上げます。合掌

令和四年一月

善正寺坊守 拝